

令和6年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

目指す 学校像	生徒一人ひとりの成長を促し、自己実現達成のための教育を行う学校（夢を実現させる・取り組みを結実させる・地域とともに歩む）		
三つの方針	具体的目標		
「三つの 方針」 （スкуль・ポ リシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標）○自己成長を図り、自己実現にむけて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財。 ○個性や多様性を尊重し、相互に認め合える、心豊かな人財。 ○学校で培った資質・能力や共感力を生かして地域社会に貢献できる人財。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標）○主体的・対話的で学びを深める授業を通し、対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための支援活動を展開する。 ○学校が地域や社会と連携・協働して生徒の成長を支え、地域に必要とされる生徒の育成を図る。	
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標）○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守り、行動できる生徒。 ○自分の進路実現のために、前向きにチャレンジできる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協働して、意欲的に取り組む生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>進路指導については、定期的な進路ガイダンスの実施、日常的な進路相談等により、生徒の意識、意欲が高まった。進学、就職ともに、ほとんどの生徒（93%）が目標を達成できた。保護者向け学校評価アンケートの結果によると、「本校に入学させて良かった」との回答が約94%であり、自己実現のために生徒が教職員ともに取り組む姿勢が見られ、良好な人間関係を構築している成果であると思われる。今後も生徒ファーストの精神で日常的な学習活動や進路指導、特別活動の充実をはかっていく。</p> <p>神栖市と市内3高校の包括連携協定が5年目を迎えた。新たな取り組みに挑戦するとともに、異校種間交流をさらに深める。開かれた学校づくりを推進するために、教育活動についての情報を発信し信頼感と連携・協働の意識を高める。</p>	学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着を目指した生徒の学習習慣の確立	B
	授業改善	② 主体的で対話的な学びができる学習態度と異なる価値をもつ他者と協働できる学習態度の涵養	A
	特別活動・部活動	③ 生徒による授業評価において授業満足度80%以上（KPI）となるような授業の工夫	B
	生徒指導	④ 主体性の育成を意識した学校行事や生徒会活動、常任委員会活動の実施 ⑤ キャリアパスポートと学校行事や教育活動との積極的かつ効果的な紐付け ⑥ 健康で安全な生涯を意識させた教育活動や部活動の実施	A
	進路指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上	B
	地域・関連機関との連携	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化・課題設定による学習の習慣付け ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進	B
働き方改革	⑭ 関係諸機関との連携事業の実践（神栖3ココシブ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等） ⑮ 地域とともに歩む事業の実践（柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業） ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な発信	B	
		⑰ 全職員の連携と業務の効率化 ⑱ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識の浸透	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業が楽しいと回答する生徒80%	校内授業研修期間を設定し、指導方法を工夫して生徒が学びやすい授業環境をつくる。①②③⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での観点別評価のタイミングの共通理解 ・発達段階に応じた教育支援
	学校が楽しいと回答する生徒80%	ユニバーサルデザインを意識した授業づくりをする。②③④⑩	B	
		行事や各活動を探究活動と紐づけし、目標に向かう態度を育成できる活動をする。②④⑫	B	
		行事や各活動へ主体的に取り組めるような掲示などを工夫する。②④	C	
進路指導	キャリアデザイン能力と学習の振り返りを強化する。	全教科で目的と振り返りを意識した授業を実践し、思考力・表現力の向上を目指す。①②⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験やゼミに対する意識の高揚を図る。 ・保護者の理解・協力を得られるよう日頃から情報交換を図る。 ・キャリアパスポートを有効に活用するよう努める。
	活発な言語活動を実践する。	自主学習の習慣化により学力・知識の定着と伸長を図るとともに、ゼミの参加や検定への挑戦を促す。①⑩⑪⑫	B	
		I C Tを活用した授業や単元テストで言語活動の実践を促す。②③⑩⑫	B	
	3学年の最終進路決定100% 2学年末までに希望進路決定90% 1学年末までに進路希望決定80%	進路ガイダンスや総合的な探究等に言語活動を組み込む。①②⑫⑬	B	
		生徒の意識を高める進路ガイダンスや企業説明会等を実施する。⑩⑫⑬	A	
		個々の希望や適性を考慮して、必要に応じて合理的配慮を意識した指導・支援を行う。②⑫	A	
適切な進路指導を実践する(生徒・保護者対応、文書処理、外部対応等)。②⑫。	A			
生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、正しい服装や礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に自律した生活を送れるような指導の工夫。 ・基本的な生活習慣が身につくような指導の工夫や家庭との連携。
	健康・安全に対する意識の向上。	遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	B	
		病気や交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑥⑧	A	
	携帯電話の使用マナー向上。	登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑥⑧	A	
		校則の理解を深めさせ、節度ある使用態度を育成する。⑦⑨	A	
外部講師を招き、SNSに関するマナー・トラブルを理解させる。⑦⑨⑭	A			
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る	全校清掃を実施し、組織的な環境美化活動を実践する。③⑥⑰	B	<ul style="list-style-type: none"> ・共同清掃の活性化を図る。 ・心身の健康とスクリーンタイムについての指導。 ・学習環境の整備
	健康に対する意識の高揚を図る。	生徒委員会活動とリンクした安全指導、安全管理を行い、保健安全に対する意識を高める。⑥⑧	A	
		全校清掃をはじめ生徒との協働をとおし心身の健康の向上を目指す。③⑥⑰	B	
	健康の維持増進のための適切なデジタル機器使用について指導啓発する。⑥	B		
交通安全・防災意識を高める指導をする。	交通安全指導、不審者侵入を想定した避難訓練を実施し、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑥⑧	A		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	「地域に寄り添うPTA」をモットーとして地域貢献に努める。⑭⑮	A	<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年事業に向けての構想と準備。 ・渉外広報担当者の世代交代。
	保護者・教職員とともに参加型の活動を促進する。	マナーアップ活動への参加促進を行う。⑦⑭⑮	A	
		校内行事や企画への積極的参加を呼びかける。⑭⑮	B	
	保護者との協働によりコミュニケーションの向上をはかる。⑭⑮	A		
PTA広報誌の充実を図る。	学校からの情報発信を高めるとともに、広報誌の質的向上をはかる。⑮⑯	A		
特別活動	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感を高め、学習や生活への意欲を高める。②⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がより主体的に学校行事等に取り組める指導の工夫。
	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。②④	B	
	部活動の活性化を図る。	地域のスポーツ人材と連携し、効果的な活動を目指した指導体制を整備する。④⑭⑮⑰	C	

評価基準 A:大変良くできた B:良くできた C:普通 D:やや不十分 E:不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	C	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた、一人ひとりの段階に応じた基礎学力の向上。 ・集団生活を行っていく中で重要となるコミュニケーション能力の育成。 ・遅刻数と異装数を減らす。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。⑦	C	
	場面に応じた学び方を身につけ、基礎学力の定着を図る。	Classi や課外などを通して、自主的に学習する姿勢を養う。①②⑩	B	
		I C T教材と紙媒体を併用し、個々に応じた学習活動を実践し、基礎学力の向上に努める。①③⑩	B	
	自分の考えを発信できる主体的なコミュニケーション能力を高める。	小グループの中で自分の意見を発信する力を養う。仲間と協力してHR活動・部活動・学校行事に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	B	
	自身の現在地を把握する力を養い、自己の能力を伸長させる活動を実践する力を養う。④⑤	C		
2学年	T P Oをわきまえて規律ある行動を身に付ける。	時間を意識して、自主的に行動する生徒を育てる。④⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望を実現するために主体的な学習スタイルを身に付ける。 ・自分の考えや思いを相手方に伝える力を身に付ける。 ・自らのキャリアアップのために計画的に行動する力を身に付ける。
		身だしなみを整えて、進んであいさつや返事をする生徒を育てる。⑦	B	
	進路目標を確立し自律的に学ぶ態度を身に付ける。	授業やClassi を通して、自主的に学習する姿勢を養う。①②⑩	B	
		I C Tを活用した個に応じた学習活動の実践を通し、学力の向上を図る。①③⑩	C	
	学校行事やボランティア活動に積極的に参加する。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自分の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	B	
	資格取得に積極的に挑戦したり、ボランティア活動に参加したりし、自己を活かす生徒を育てる。⑪⑫	C		
3学年	基本的生活習慣を確立させ、規範意識を身につけさせる。	基本的生活習慣を確立させる⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使った発表スキルは、殆どの生徒に身に付けさせることができた。多くの生徒の進路を決定することができた。一方、生活習慣や規範意識、基礎学力については、十分に定着させることのできない生徒が少なくなかった。
		規範意識を身につけさせる。⑧	B	
	基礎学力を定着させ、表現力を向上させる。	授業に意欲的・主体的に参加できる態度を育成し、基礎学力を定着させる。①	B	
		タブレットやプレゼンテーションアプリのスキルを身につけさせる。②	A	
	長所・適性を自覚させ、進路希望を実現させる。	自分の長所や適性を考える時間をとり、友達との話し合いを通してそれらに気づかせる。⑩	B	
	自分の長所や適性を踏まえ、自己実現できる場を考えさせる。⑪	A		
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督促して、授業でも関連指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書き能力を養う。①⑪	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定受験者を増やし、準二級以上の取得者を増やす。国語の基礎的な資質能力の定着を目指す。
		反復練習によって用言の活用をできるようにし、古典読解への基礎力を養成する。①②③	B	
	文章読解力を養う。	生徒の実態に合った授業実践と改善を行い、文章を的確に理解し自らの意見を持てる力を養う。①②	B	
地理 歴史 公民	基礎・基本の定着と歴史的思考力・地理的判断力の向上を図る。	生徒の実態や場面に応じた授業実践とその改善を図り、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのI C T双方活用を充実させる。基礎的・基本的事項の定着と、生徒が身近な課題を自分事として考察し、自分のことばで表現する力の育成を図る。
		時間軸・空間軸を意識して諸々の課題を自分に関連づけて考察し、表現する力を養う。①②⑩	B	
	基礎・基本の定着と現代の諸課題を主体的に考察・判断する力を養う。	生徒の実態や場面に応じた授業実践とその改善を図り、基礎的・基本的事項の定着を促進する。①②③	A	
		社会に生きる一市民として現代の諸課題を自分に関連づけて考察し、表現する力を養う。①②⑩	B	
数学	基礎・基本の定着を図る。	電子教科書と板書を併用して、生徒の実態に合った授業を実践し授業改善を図る。①③⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を達成するための効果的な指導方法を工夫する。 ・I C Tを有効活用しながら個に応じた指導を心掛ける。
		小テストなどで理解度を確認できるようにし、基礎・基本の計算力、応用力を段階的に高める。①③⑩	B	
	主体的に問題を解決する力を養う。	グループワークを行い、既習事項をもとに、問題を解く道筋を考えられるよう支援する。①②	B	
		生徒に数学検定の受験を勧め、対策ゼミを行い、合格率を上げる。①⑪	B	

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
理科	基礎・基本となる科学的知識・技能を定着させる。	板書やICT教材を工夫し、生徒の実態に合った授業を展開する。①③⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の現象と学習内容を関連させ、基礎学力の定着をはかりたい。 ・多様な授業を展開し、多方面から生徒の能力を開発し、評価できるようにする。
		小テストや振り返りシートなどで生徒自ら理解度を確認する機会を設け、定着につなげる。①②⑩	B	
	身近な事物・現象に興味をもち、根拠を基に考え・説明する力を養う。	実験を的確に実施し、日常生活と関連させながら科学的事象を体験させることで、生徒の授業満足度を80%以上にする。①②③	B	
保健 体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	健康・安全に配慮し、主体的に学習に取り組む態度を養う学習活動を工夫改善する。②⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣を送れるようになるような指導の工夫。
		スキルテスト等を行い、運動技能の習得と課題解決に向けた姿勢を養う内容を増やす。①②③	A	
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。②③⑥	A	
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	基本的技術を身に付けさせる。①②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽にかかわる態度と習慣を育て、音楽に対する興味・関心を更にもたせる。
		様々な表現方法を体験させる。①②③	B	
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①②③	B	
家庭	家庭に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	安心安全・衛生面に配慮し教具や実習室を整備し、主体的な学びができるよう活動を工夫する。①②③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けての技術や知識を習得させる。 ・実習活動を通して他者理解を深めさせる。
		ICTを活用し視覚からの情報を得ることで確認・理解を深め実践する。①②⑩	B	
	家族や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	授業の学びを活かしてホームプロジェクトを実践し、家庭や地域生活の課題を解決できる能力を身につける。④⑤⑬	B	
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	生徒の実態に応じた教材を作成し、授業において効果的に活用する。①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じ、教科内で話し合いを持ちながら、教材や指導法を工夫した。英検合格者数の維持、増加を心がけたい。
		生徒の進路実現に向け英検受験を奨励し、対策ゼミや個別指導の機会を設け合格率を上げる。⑩⑪	B	
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	授業における生徒の言語活動の機会を増やす。授業で定期的にプレゼンテーションをおこない、日頃の言語活動の成果を発表する場を設けることで、生徒の発信力向上や成功体験に繋げる。①②③⑩	B	
情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。	伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付ける。①②③	C	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で情報を効果的に伝える場面が少なかった。 ・課題の適切な解決方法を考えさせる。
		目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、問題の適切な解決方法を考える。①②③⑩	C	
	情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報社会における個人の果たす役割や責任、情報モラルなどを身に付ける。①⑦⑨⑩	B	
		情報と情報技術の適切かつ効果的な活用を身に付けられるよう授業改善を図る。①⑦⑨⑩	B	

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分